平成24年7月21日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
平成24年　第6回講話

先ほど道場で真向法の講習を致しました。参加された方もされなかった方も、それぞれ何か健康法をされると良いと思います。

毎年季節ごとに出している四季だよりに、「習慣は、健康体操と歩くこと」と書きました。

― 夏のたより ―

楽しみは、詩吟・物書き・ぶらり旅

習慣は、健康体操・歩くこと

恥かきは、漢詩創作・英会話

夢を見る、知足の心をつなげたい　日本そして世界へと

前にも申しましたように、恥をかく事は何かに挑戦をしていることですから、必要な事です。この間、木内孝顧問お会いした時に「深澤さん、最近は英会話やっていないでしょう？」と聞かれましたが、とんでもない。少しずつ覚えるようにしています。英会話の他に漢詩創りにもチャレンジしていますが、なかなか上手く出来ません。何故かと聞きましたら、なまじ漢字を知っているとそちらの方に引きずられてしまうそうです。漢詩は中国の古代語ですから、同じ漢字でも意味も発音も違います。ですから日本語的な発想で漢詩を創っても駄目なのです。かなり四苦八苦しながら恥をかいています。

四季だよりは、そのうち皆さんのお手元に届きますので、どうぞご覧ください。

素読のすすめ

先ほど論語を素読しました。初めて参加される方がおられますので若干お話致します。

中斎塾フォーラムでは論語の素読を通して、自身の心の中に日本人としての判断基準を知らず知らずの間に取り入れようとしています。論語を読む時に、黙読をした場合ですと身体に入ってくるエネルギーは2%か3%です。素読をして声を出すと、これが50%くらいに跳ね上がります。何度も素読をしているうちに、夢を見ているように頭の中にイメージが浮かんでくると、70%から80%くらい入ってきます。

論語を素読することによって、自分自身がこれだ！と思う言葉を一つでも見つけたなら、それで大成功です。それを深く深く掘り下げていけば、自然と他の論語のエキスも身につきます。又、何時いかなる急場でも、その文章がとっさに頭に浮かんで対処することが出来ます。

ちなみに私が論語の中で自分自身の言葉にしているのは、「利に放りて行えば、怨多し」です。目の前に出てきた良さそうな話に、直ぐにぱくっと飛びつかない。世の為・人の為になるかどうかじっくり考えて抜いて、良しと思ったら手を出すということです。

『論語講義』を書かれた渋沢栄一さんは「利に放りて行えば、怨多し」を自分の判断基準とし、一生涯これを守り抜きました。渋沢栄一さんは明治時代、日本に株式会社という制度を導入し、育て、発展させて、五百数十社の日本の基幹企業を創りました。『論語講義』の中で渋沢栄一さんは、経営者は「利に放りて行えば、怨多し」の考え方をしっかり身につけるべしと語っています。更に、天下りの経営者は「利に放りて行えば、怨多し」の判断基準がないために、ほとんどの会社が駄目になっている。民間の創業型は、世の為・人の為という使命感を持っているから順調に会社を伸ばしていけるのだとも語っています。

我々が仕事をする時にも、やはり本物の仕事をしましょう。世の中の為になる仕事、自分自身の心がどんどん昇華する、レベルアップするような仕事に携わるのが良いと思います。それは論語の中に随所に出てきます。その中で、自分の心にあったものを探せばよろしいでしょう。

中斎塾フォーラムの基本は、「足るを知る」という考え方を知らず知らずの間に身につけることです。具体的なものとして論語から入る。そして知らず知らずの間に、陽明学が身についてくる。知らず知らずというのを私は意識しています。お話させて戴く中で、世の中の事例をいくつも申し上げていきますから、それではっと氣がつくことが出来れば良いと思っています。

恒例の質問

中斎塾フォーラムでは毎回、嘘をついたか・つかないかをお聞きしています。

先日、木内顧問の主宰しておられる勉強会で石川県にあるトマト農場へ視察に行きました。その農園の入り口に「人の悪口を言う人・野菜の悪口を言う人は入るべからず」とありました。農園の社長さん曰く、「悪口を言わなければ清々しいですから・・・」ということでした。同じように、嘘をつかないと清々しい一日を送れます。

初めての方は、頭をすっきりさせて昨日一日を思い出してください。

○　昨日一日、嘘をつかなかった方？

○　昨日有難うと言い、有難うと言われた方？

○　昨日一日、良い日だったな思える方？

・・・足し算・引き算で昨日一日を考えないでください。悪いことは息をふっと吹きかけて飛ばし、良い事だけを思い出して、それを掛け算すればよろしいでしょう。

○　自分の健康法をお持ちの方？　それを今朝、実行してきた方？

・・・最初に申しましたように、自分の生活習慣に何か健康法を取り入れるとよろしいでしょう。最近お腹の出ている人が多いですね。健康法がないという方は、一つ簡単な健康法をご紹介します。背中を壁につけて立ち、顎を引いて、一歩前に出る。この姿勢でゆっくり長く息を吐いてお腹をへこませる。お腹が出っ張っているとなかなかへこみません。どうぞこれだけでもよいのでやってみてください。

木内信胤先生のことば　「悟る」とは・・・

本日、ご紹介する本は木内信胤先生の書かれた『当来の経済学』（プレジデント社）と、『木内信胤語録』です。この中から木内信胤の言葉をいくつかご紹介します。

・輸出が伸びる事は、日本の発展につながらない事を覚えると良い

世間では普通、輸出をどんどん伸ばすのが良いと考えますが、木内先生は昭和63年にそう言われています。

・これからの世の中は、グローバルは駄目

・アメリカはえらい勢いで転落をします

アメリカのやり方が世界各国に広がっていくことは決して良いものではない。これからは各国が循環型社会でいくべきだ。その国はその国で自給自足をすべきだ・・・とも言っておられます。

確かに他の国から色々な食べ物を輸入して食べるというのは、良いものではありません。中村天風先生が書かれた本にも、「人間はその土地で採れたものを旬の時期に食べるのが一番身体にあっている。南方で採れた果物をわざわざお金をかけて日本に持ってきて食べるなど、身体に良いはずがない」とあります。また、「殺される時に悲鳴をあげて鳴く動物の肉を食べてはいけない」とも書かれています。

・全体がよいとみれば、部分がわるくても、その部分は悪いことが良いのである

これは今の民主党で考えれば分かります。民主党は、日本の国を良くする為に、悪いことばかりをする政党として生まれてきたのですから、民主党が打つ無様な手は日本の国をどんどん悪くする方向にもっていきます。

最近は鳩山さんの言行を見ていると興味を覚えます。今朝の新聞にも脱原発のデモに参加して演説をしたという記事がありましたが、よくこれだけ破廉恥なことが出来るものだと思います。菅さんも言行不一致の見本のような人です。以前、菅さんは「第４の男」と呼ばれていたという話をしました。安保闘争の頃、学生のデモ隊と機動隊が衝突しましたが、菅さんは学生の先頭に立ってデモを煽るアジテーターでした。第３列までは機動隊に逮捕されたりするのですが、菅さんはスッと第４列以降に消えるから絶対に捕まらなかった。それで「第４の男」と呼ばれました。実に要領の良いゲリラ活動をした学生だったわけですが、その人が総理大臣になってしまった。

民主党はそういう人たちが引っ張ったのですから、日本の国を良くしようと思ってやっているけれども、打つ手としては日本の国をどんどん悪くする。日本の国が悪くなっていく、それに加速度をつける役回りに生まれた政党ですから、そういう動きしか出来ないのです。

しかし1000年単位という大きな時代の流れで見ていった時に、日本の国は東洋の中のコアになっていると思います。神様と一緒・神様と一体化していく・自然がすべて神様という考え方をもっている民族は、これからの世界をリードする役割を持つ民族だと思います。日本という国は世界をリードしていく役回りで、今、再生しつつある。再生の芽が生まれてきている状況だと思います。700～800年で一つの文明（西洋文明）が生まれ、発展し、衰退する。今はその転換期に入っています。その次の東洋文明が新たに誕生し、発展していく中の中心的な役割を果たすのが日本であろうと考えています。

しかしながら、日本は落ちる所まで落ちないと、ポンと再生の弾みがついてこない。そう考えると、民主党は日本の国の癌のようなものですから、癌が癌としての役割を果たす事によって、それから再生への道が開けるわけですから、日本全体で見れば良かったということになります。

ですから木内先生が言われた「全体（日本国）が良いと見れば、部分（民主党）が悪くても、その部分が悪いことが良いのである」は、民主党がやっていることは目先で見ると悪いけれども、長い目で見ると結果として良いことをもたらすであろうと理解すればよいのです。

・不況になったら、法人税を減税するという考えでゆくべきである

これも木内先生が昭和63年に言われた言葉です。不況になったら政府はくれぐれも増税など考えてはいけない。不況になったら減税をすべきで、そうすれば日本は良くなると木内先生は言われています。

・ドイツに1923年、物価が1兆倍になったという大インフレーションが起きましたが、そういうことが一度あった以上、二度と同じことは決して起こらないのです

木内信胤先生はドイツに住んでおられました。1兆倍というのは想像つかない数字ですが、ドイツの教科書で、馬車の荷車に札束を積んでお昼ご飯を食べに行くという絵を見たことがあります。ハイパーインフレが現実に起きた話です。他の国ですが、お札に自分でゼロを書き加えて流通させている状況で、国民も物価が何倍になっているのか分からないような国が、つい最近までありました。日本でも60年くらい前は、印刷する間がないので後ろが白紙で出ている紙幣もありました。

1兆倍は二度と起きないだろうけれども、ハイパーインフレが起きる可能性はまだあると思います。

・人間社会は悟りによって向上する

・およそ人間社会の学問に属する事柄の理解には、「一葉落ちて天下の秋を知る」という東洋の古語を実践に移す以外、よるべき方法はない

今日のテーマでもある「悟る」について、木内先生は「一葉の原理」とおっしゃいました。秋になって一枚の葉っぱが落ちてくる。それを見て秋だなと感じる。こういう気持ちは日本人には説明しなくてもなんとなく分かります。

・ものが分かるのは「直観力」の仕業であって、知識を集積した結果ではない

色々なことを沢山知っているからといって、ものが分かる人間にはならない。人は物事の一部しか見られないけれども、葉っぱが一枚落ちてくるのを見て、全体が見える。秋だなと分かる。

・何のわけかはわからないが、急に何かが判明した

はっと分かる、つまり直観です。これは人間の人間たる所以である、とも言っておられます。

・外人と話をするとＹＥＳとＮＯしかない。白か黒しかない世界の割り振り方をするからいけない。これからはＹＥＳとＮＯの間にもう一つの世界があることを知るべきだ

ＹＥＳとＮＯの間、ほどほどが良いということです。つまり中庸・中道・中有といった日本人なら自然と分かる「中」という文字です。木内先生はこれをハイエク先生（世界的な経済学者）に説明したけれども、理解して貰えなかった。そこでハイエク先生が来日された折京都や奈良の神社仏閣を案内して回ったところ、「分かった。日本人はこういうことを考えているのか・・・」とはっとハイエク先生は悟ったのだそうです。それによって経済学が変わってきた、と木内先生は仰っていました。

・現代の経済学では、生きた社会に起こっている経済現象を説明することが出来ない

・日常生活に役に立たないものは学問ではない

常識を寄せ集めて体系化したものが学問だ、とも言っておられました。

・経済学と歴史は同じもの

経世済民（世の中を救うもの）＝「経済」といいますが、木内先生は経済学とは歴史学の一部局で、経済と歴史を別々に考えていたのでは本当のことは分からない、と言っています

本当のこと、つまり真実が腑に落ちる。これらを全部まとめると「悟り」です。木内先生曰く、「はっと氣がつけばよい」「理屈を寄せ集めても分かるものかね」なのです。

最後にもう一つ、印象に残っている先生との会話があります。

「君、来世があると思うかね」と聞かれ、私は先生がいつも〝分からない時には分からないと言うのが正解だよ〟と言っておられましたから、「分かりません」と答えました。すると先生は、「君ねぇ、来世があると思った方が楽しかないかい」と仰いました。「楽しかないかい」の言い方が、なるほどごもっともだなぁと納得したことを覚えています。

論語解説

論語の解説を致します。今日は郷党第十　九～十三です。

【九】席（せき） 正（ただ）しからざれば坐（ざ）せず。

孔子は座布団が正しい置き方をしていなければ座らない。

置いてある座布団が歪んでいたり偏ったりしていると、孔子は座らなかった。厄介な人だと周りには受け止められると思いますが、きちんとした姿勢・態度で相対するという氣持ちが孔子にはあったのでしょう。

【十】郷人（きょうじん）の飲酒（いんしゅ）には、杖者（じょうしゃ）出（い）づれば斯（ここ）に出（い）づ。郷人（きょうじん）の　儺（おにやらい）　には、朝服（ちょうふく）して阼階（そかい）に立（た）つ。

郷人とは500軒くらいの村の人たちです。

村人たちが集まって酒盛りする席では、老人が退席するのに合わせて孔子も退席をした。（先に退席するようなことはしなかった。）

鬼やらい（疫病を追い払う儀式）の時には、朝廷に出る時の服を着て、自分の家の葬廟の階段に立っている。

これは儀式に参加しているイメージで考えてください。

ひと　たほう　と　　さいはい　　これ　おく　　こうし　くすり　おく　　はい　　これ
【十一】人を他邦に問わしむるときは、再拝して之を送る。康子　薬 を饋れり。拝して之
う　いわ　きゅう　いま　たっ　あえ　な
を受けて曰く、 丘　未だ達せず。敢て嘗めずと。

他国の友人へ使者を立てる時には、氣持ちをこめて丁寧に送りだす。

魯国の家老である季康子が孔子に薬を送った。孔子はそれを恭しく受けて、「私はまだこの薬の効能を知らないので、服用は致しません」と言って飲まなかった。

うまや　や　　し　ちょう　しりぞ　いわ　ひと　そこ　　うま　と
【一二】 厩　焚けたり。子　朝 より 退 きて曰く、人を傷なえりやと。馬を問わず。

馬屋が火事になった。孔子が朝廷の会議から帰って来て、怪我人はいなかったかと聞いた馬の事は聞かなかった。

この当時、馬は貴重な戦力ですから、人より馬の方を大事に思うことがあったのでしょうしかし孔子は馬のことは聞かなかった。

きみ　しょく　たま　　かなら　せき　ただ　　ま　これ　な　きみ　せい　たま　　かなら　じゅく
【一三】君　食 を賜えば、必 ず席を正して先ず之を嘗む。君　腥を賜えば、必 ず熟
これ　すす　きみ　い　たま　かなら　これ　やしな　きみ　じしょく　きみ　まっ　ま
して之を薦む。君　生けるを賜えば、必 ず之を 畜 う。君に侍食するに、君　祭れば先ず
はん　や　きみ　これ　み　とうしゅ　ちょうふく　くわ　しん　ひ　きみ　めい　め
飯す。疾めるとき、君　之を視れば、東 首して、朝 服 を加え、紳を拖く。君　命じて召せば、
が　ま　ゆ
駕を俟たずして行く。

君主から食を戴いた時には、必ず居ずまいを正して毒味をした。生肉を戴いた時には、必ず煮て祖先に供えた。動物を戴いた場合は、直ぐに殺して食べたりしないで、必ずこれを飼育した。君主に陪食する時には、君主がお供えをしたら、先ず毒見をした。

孔子が病気になって君主がお見舞いに来た時は、必ず東枕で礼服を掛けて広帯を上にして横になり、それなりの礼儀を尽くした。

主君からお召しがあった場合は、馬車の用意を待たずにすぐさま歩き出している。

後から馬車が追いかけるような光景を思い浮かべればよろしいでしょう。

では、素読をされた青木さん、この中で氣に入った文章がありましたか？

（青木会員）十二の「厩 焚けたり・・・」の文章です。馬でなく人を大事に考えている所です。

結構です。馬は非常に貴重な動物で、馬一頭亡くしたら大変な財産を無くすことになるわけです。馬がいなくなったり怪我をしたら大変だと思う氣持ちを抑えて、人は大丈夫だった

かいと聞く。

以前、渋川市で老人ホームが火事になってお年寄りが亡くなりました。女性の施設長が号泣して「法的に問題はないけれども、道義的な責任を感じる」とテレビカメラの前で頭を下げている映像がありました。自分が家に帰ったら火事だった。皆さんなら真っ先に何を思いますか？　家族は大丈夫かと思うのか、貴重品が焼けてしまったと思うのか、或いは隠していたヘソクリはどうだったかと思うのか・・・自分に置き換えて考えみるとよいでしょう。

論語はすべて自分に置き換えてみる、或いは世の中の出来事に置き換えてみるとよろしい。そうするとすっと腑に落ちてくる。そういう見方をして下さい。

私が面白いと思った文章は、「丘 未だ達せず。敢て肯めずと」の部分です。私は1ヶ月に1回、かかりつけのお医者さんに行って薬を貰います。一時期メタボと言われ、糖尿病・前立腺・高血圧・コレステロール・高脂血症・痛風等々の薬を沢山貰っていました。さすがに多すぎるからと思い、お医者さんと交渉して減らすようにしました。この薬を飲まないでいるとどうなるか人体実験をしています。1ヵ月後に効果を確認して、この薬を飲むか飲まないか、篩い分けをしています。

孔子は、薬の効き目をよく知らないので服用はしないと言っています。医者が勧めても、知り合いが勧めても私は飲まない、と孔子のようにやってみたいと思いました。

ちなみに孔子は道端で売っているようなものは食べない。生肉も食べない。自分の家で作ったものしか食べない・・・等々論語の中にあります。薬の服用の仕方だけでなく、孔子の食生活・生活習慣など、論語の中にいくらでもありますから、どうぞ探してみてください。

時事評論

新聞を見る時、テレビを見る時、ネットを見る時・・・三つの視点で見るように申し上げています。

1.　民主党の打つ無様な手を見る

無様という所に注意をして下さい。なぜならば民主党が良かれと思って打つ手はすべて、日本の国を悪くする方向にもっていくものばかりだからです。

2.　国債の動向を見る

今朝の新聞を見ると、格付け会社フィッチが邦銀の格付けを下げたという記事がありました。三菱UFJ、みずほ、三井住友の3 大金融グループ傘下の銀行、三井住友信託銀行の格付けを「A」から「Aマイナス」に一段階引き下げた。フィッチは格下げの理由について、邦銀は巨

額の日本国債を保有しているため、５月の日本国債の格下げに伴って銀行の信用力も低下したと判断した、とあります。

同時に今朝の新聞に、三井住友銀行が印紙税約１億５千万円を納付漏れ、とありました。これだけの金額ですから、組織的に印紙税逃れをしようとして見つかった。そして追徴課税されたというわけです。

全く違う２つの記事ですが、何か見えてきます。

日本の国債が引き下げになる。国債の値打ちが下がれば、日本の銀行の値打ちも下がる。現実として日本の国に凄まじいインフレが近づいてくる、その足音が聞こえてくるような感じがします。そうすると、先ほど申し上げたドイツの１兆倍の大インフレが垣間見えます

国債の動向という一つの視点から、色々なものに知識が広がって合体します。その人にどれだけの体験があるか、どれだけの洞察力があるかによって、色々な記事が浮かび上がって来て、融合・合体して、やがて「悟る」という心の動きにつながります。

３．　自然災害を見る

日本に大きな災害がまだ来ると思っています。どういう自然災害が起こるか、嗅覚を磨いておく必要があります。

やはり今朝の新聞に「外国人観光客が震災前の水準に回復」という記事が出ていました。咽元過ぎれば熱さを忘れるのですね。日本まだ回復したわけではありません。災害はまだ起きます。

特に原発で考えると、３月に参加したシンポジウムで、南相馬市の市長さんがこう語っていました。「私共の地域は20キロ圏内として緊急時避難準備地域と指定され、その結果、住んでいる住人が居るにもかかわらず物流が止まりました。ガソリンや食糧、酷いのは救急車やドクターヘリが来なくなりました」。更に、読売新聞から取材の申し入れがあったそうですが、本社から５０キロ圏内は危ないから入るなという通達があって行かれないという理由で、わざわざ市外に出掛けて取材を受けたそうです。市長さん曰く、「日本の政府は我々を見捨てたのか」という科白が印象的でした。まだまだ復旧も復興もしていません。近い将来、災害は起きると思っています。

新聞をよく見ていると、災害が起きそうだと感じる記事が散見されます。どうぞこの次災害が起きたなら自分はどういう対応をするか、考えておくとよろしいでしょう。

新聞その他マスコミの情報を見る時には、自分なりの判断基準をもって見ることをお勧めします。そうすると腑に落ちます。腑に落ちたならば、予測をしてみるとよい。そして１ヶ

月くらい経って、自分の予測が当たったかどうかを検証する。当たっていれば何故当たったのか、当たらなかったならば何故はずれたのか、追求する癖をつけるとよろしい。

新聞をチェックして、自分の心の中にある判断基準で見る。それを１年間継続してやっていけば、自分でも驚くくらいの判断基準が身についているようになります。皆さんの１年後を楽しみにしております。